

前へ歩く姿 道標に



大谷氏 法話要旨

幸、不幸は心の使い方

人は心の使い方によって幸せにも不幸せにもなる。雨に向かっただけを言っても天気は変わらない。今、世界では戦争で鉄砲の弾が降っている。雨ならば拭えばよい。雨でよかったと思えるのは自分の心構えしただけ。命はみんな先祖から受け

榎葉でまほろば塾

榎葉町コミュニティセンターで12日開かれた「福島まほろば塾inならば」では、奈良薬師寺執事の

谷氏と歌手森山良子さん、シンガー・ソングライターさだまさしさんの鼎談も盛り上げられ、3人は古里復興へ前を向く県民の背中を力強く押した。「一面

に本記」大谷氏は「中々生きる」と題し、古里再生を進める町民へ「腹をくくって前へ歩く姿がいずれ(双葉郡復興の)大きな道標になる」とエールを送った。

や、本県産品の検査体制の充実さに言及。本県に対する応援や支援の継続を約束した。法話に先立って行われた七回忌法要では、浄土宗浄林寺(富岡町)の早川光明住職と浄土宗

東日本大震災七回忌追悼・復興祈願法要した「福島まほろば塾inならば」は12日午後、榎葉町コミュニティセンター



榎葉町復興祭の一環で、良子さんとシンガー・ソングライターさだまさしさんの共演を堪能した。復興を

義援金100万円

榎葉南、榎葉北の両小、榎葉中が4月から町内に戻り授業を再開するため「子どもたちの楽器購入に活用してほしい」と森山さんとさだまさしさんの希望が託された。コンサート終演後、奈良薬師寺執事の

イベント号外発行

福島民友新聞社は、「福島まほろば塾inならば」開催を記念し、聴講者向けにイベント号外を発行した。イベント号外では、まほろばの由来などを掲載したほか、榎葉中、榎葉北、榎葉南両小の計3校が榎葉町で4月から授業を再開することも紹介した。

夢の共演堪能

演奏に「奇跡のピアノ」

榎葉町復興祭の一環で、良子さんとシンガー・ソングライターさだまさしさんの共演を堪能した。復興を

「北の国から」などの名曲を披露。歌の間には「歌うよりしゃべるのが好き」と語り、軽妙なトークで会場を沸かせた。森山さんが「さとうきび畑」を歌うと、会場にはすずり泣く声も広がった。

音楽が元気の源に

震災が起きて、音楽家は指揮者の佐渡裕さんが泣き絶望的になっていた。気持ながら電話をかけてきた。ただだけが空回りしていた。音楽家は無力と号泣していた。

「最高の時間だった」

復興へ来場者に元気。さだまさしさんが好きだという榎葉町の草野初代さん(76)は「さだまさしさんの話には本当に笑わせてもらった。歌も含めてとてもよかったです」と笑顔で語った。富岡町の松本礼子さん(81)は「森山良子さんの変わらない声量に感動した。最高の時間だった」と振り返った。

2人の歌のピアノ演奏には、いわき市・豊岡中で津波を受けた後、修復された「奇跡のピアノ」を使用。ピアノの倉田信雄さんが力強い音色を届けた。ピアノを修復したピアノショップいわき代表の連藤洋さん(58)も演奏に聞き入り「自分たちは楽器を直す人で、音楽家がいるからこそ意味がある。演奏の機会をくださった森山さんとさだまさしさんに感謝している」と笑顔を見せた。

森山さん鼎談要旨



震災の時に心が動揺した。被災地に歌を歌いに行き、歌を歌うのを尻みくというよりも、みんなですることがしはあっ。元気を分け合いに行こうと

人の強さを知った

混乱の中でも歌を届けて一時でも励ますことで、役に立てると思う。最近、避難者いじめなどせつない話が多いと感じる。自分のラジオで「誰だ、そんないじめをするのは」と叫んだ。「福島ほど食品の検査を徹底しているところはない」ということもあって知られるよう応援した

さださん鼎談要旨



それをきっかけに、笑福亭鶴庵さんと被災者支援を行った。人は音楽を聴くと少しだけ心が動く。そうすると、何かをしなればと前向きな気持ちになれる。動くこと、疲れると寝られる。音楽は何もできないように、元気の源になっていると気付いた。